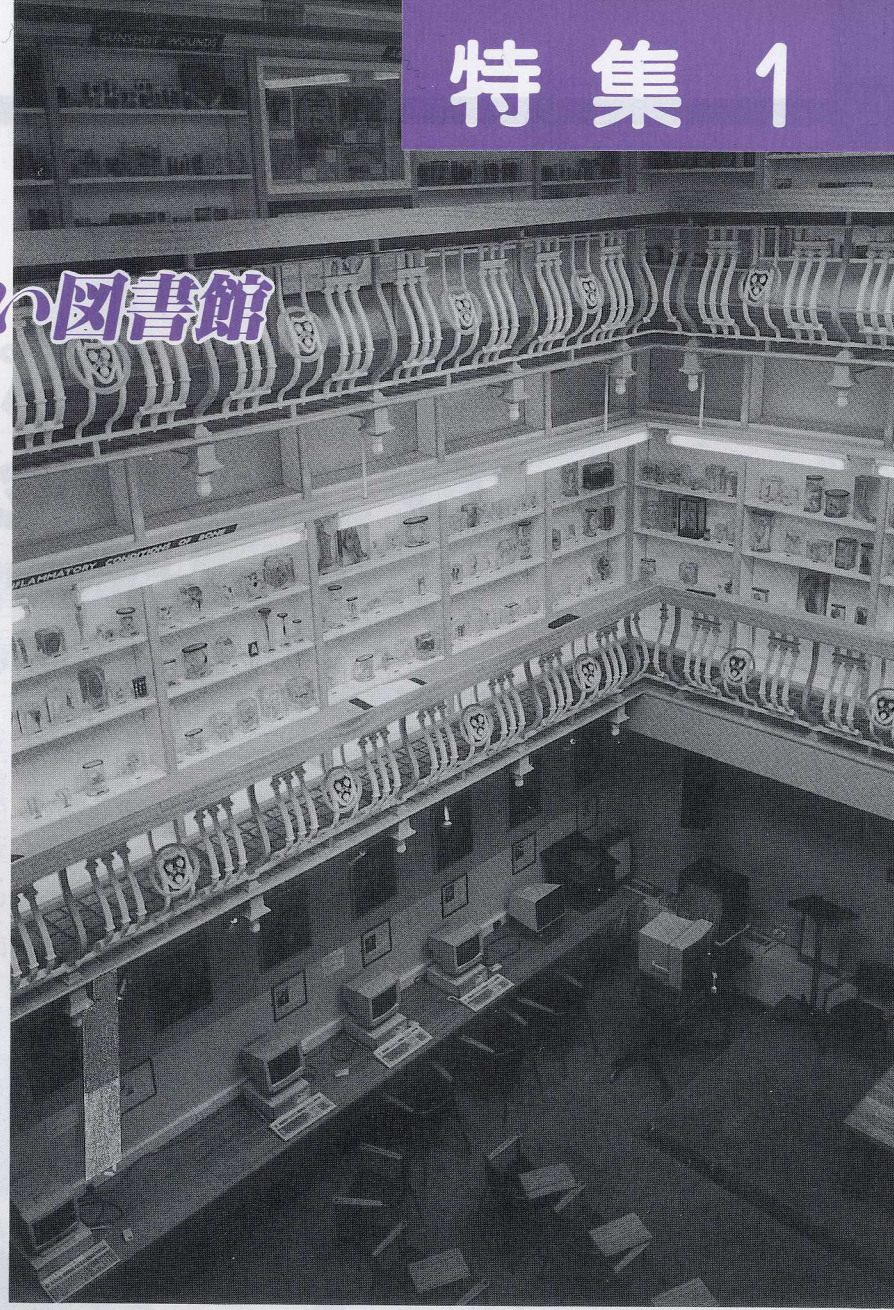


一座談会

統合移転後の新しい図書館



ロンドンのユナイテッド・ボロー医科大学 (旧ガイ病院医学校とセント・トーマス医学校) のゴードン博物館 (医学標本の保存, 図書館, 情報検索, 講義室の機能を一体化している)

統合移転は平成七年度には完了する予定で、法経二部の問題もあるが、基本的には図書館も、医学分館を除いて西条に移転する。そこで、図書館の「統合と一元化」が計画されている。図書館の一元化は何を目指しているのか、ユーザーにどんなメリットがあるのか、その過程でどのような支障・問題点があるのか、を明らかにする目的で九月十一日(土)に座談会をおこなった。

出席メンバーは、藤本附属図書館長、学問分野を代表して、人文系の湯浅文学部長、社会学系の辻法学部長、自然系の西川理学部長、それに霞地区から小嶋医学分館長、図書館の自己点検・評価報告書をまとめ、図書館の実情に詳しい、清水附属図書館運営委員の六人である。企画は小田広報委員、司会は難波広報委員長が担当した。



座談会風景 (左端から時計回りに: 小嶋, 藤本, 西川, 難波, 湯浅, 辻, 清水, 小田の各氏)

司会 今日(今日は休日にもかかわらず)お集まり頂きましてありがとうございます。さいます。まず図書館長から、図書館の一元化に関して説明を頂きたいと思ひます。

図書館の一元化とは何か

藤本 昭和四十八年頃に統合移転計画がほぼ立案されて、図書館も運営委員会でその構想の検討を始めました。その成果が、昭和六十一年の「移転に伴う附属図書館の構成と運営について」といういわゆるグリーン本です。

新キャンパスでの図書館の基本構想は、非常に広大な敷地面積を考慮すれば、利用者の便宜を図る意味で、一つでは無理だという考え方に基づいています。それで三つの図書館が計画されたのです。北地区の学部(文、教育、学教、法、経、理)の図書館でありつつ、総合図書館的な機能をもつ中央図書館に加えて、東図書館(今日の西条

分館)が先に移転した工学部・生物生産学部の教職員・学生用に研究協力機能を担うものとして、また、西図書館が総合科学部の教職員・学生の研究と全学の一般教育に広げる学習図書館として計画されました。医学分館が残りますが、これは距離的に離れている上に、この地区の研究・教育が若干特殊であることを考慮したものです。

もつとも、東館・西館は分館ではなく、中央館の管理運営の下で、サービスを行うこととなります。その意味で一元化されるわけです。つまり、いわゆるタコ足であった学部の統合とともに、分館も統合されるため、事務組織の一元化が求められるのです。

それから一元化のもう一つの側面として、資料の集中化があります。これまでは図書館に十分なスペースがなかったため、図書の配架が各学部学科の研究室単位で行われておりました。そこで、移転を期して、原則として部局所蔵資料の七〇%程度を図書館に集中することを目指しています。この値は、図書館の面積計算をする際の蔵書数の計上に当たり、運営委員会で議論して頂いて、現有蔵書数の七〇%を考慮するとの決定を頂いたことと、七〇%くらい供出されれば利用価値のあるものがかなり確保され得るであろうことに基づいています。

また、将来の展望としては、図書館での資料選定の枠を拡大して、利用価値のあるものを増やしていく作業が必要になります。今までは教官サイドで、研究主体の集書がおこなわれてきた傾

向があり、長期的な図書館づくりという観点からみて基本的な図書がかなり欠けていました。そこで、教官・学生が共同利用し得る基本的書物の充実化には、予算の一元化が必要なのです。というのは、予算の部局拠出という性格が強いと、資料選定が部局の利益に引きずられ易く、真に必要な資料の収集には至りにくいです。

清水 私の印象では「グリーン本」自体は、具体的には一元化の体をなしていなかったように思います。広大フォーラム(二十四期一号)に小林先生が書かれていたのが本場の思想的原点ではないでしょうか。小林先生は中央図書館と学習図書館の二館という理念を常に言っておられました。西図書館が総合科学部の附属図書館的色彩を強めたことに對し、その後の運営委員会の中で論争が続いていました。

西図書館や東図書館の分館的色彩を認めるような立場は本来の一元化にはあわないわけで、今の図書館長さんの発言のなかにもそのような意識がみえますが、是非ともこの点は改革をして頂きたいと思ひます。

医学分館にしても、あれは特殊で：という話がありました。が、全人的医療を要する時代に、自然科学だけでなく、社会科学、人文科学系の知識を十分持った医師の養成が期待されている時でもありますし、逆に医学的知識も他の分野の研究に重要視される時代ですから、その特殊性をあまり言うべきではないように思ひます。予算の一元化が必要なもの一つ



藤本 黎時 (ふじもと れいじ) 【専門】アングロ・アイリッシュ文学研究 【現職】附属図書館長

由は、何の合理性もない古くからの計算式で行われてきた学部負担の不公平を是正することにあると思ひます。

今回の予算一元化は、ある程度根拠の明確な負担率に基づく全学的予算が得られ、最大のユーザーでありながら、従来等閑視されていた学生の利便を図るために、全学的立場で図書・雑誌の選定ができるということです。また図書館予算したいが以前に比べて拡大しているわけではありませぬ。このことは特に指摘しておきたいと思ひます。

小嶋 医学分館の場合は、現状では一元化からのけ者にされてるみたいで(笑い)。分館の位置付けが附属図書館組織の中で不明で、例えば、いま保健学科の増設に伴い増設問題があるのですが、どこに話をもっていけばいいのかわからない程なんです。従って、予算面でも、組織面でも、一元化しないことには、図書館の中の位置づけができないという感じなのです。



司会 難波 紘二 (なんば こうじ) 【専門】リンパ節のガン(悪性リンパ腫)の研究 【現職】広報委員長

一元化の受け止め方

湯浅 部局の負担額が増えたわけでは... 湯浅 部局の負担額が増えたわけでは... 湯浅 部局の負担額が増えたわけでは...

西川 いずれにせよ、図書館の本来の... 西川 いずれにせよ、図書館の本来の... 西川 いずれにせよ、図書館の本来の...

司会 コンセンサスを得るには、やは... 司会 コンセンサスを得るには、やは... 司会 コンセンサスを得るには、やは...

ものを全学予算で賄うようなことにな... ものを全学予算で賄うようなことにな... ものを全学予算で賄うようなことにな...

集管理運営というのはいろんな意... 集管理運営というのはいろんな意... 集管理運営というのはいろんな意...

湯浅 逆を言えば、一元化といった... 湯浅 逆を言えば、一元化といった... 湯浅 逆を言えば、一元化といった...

れば、我々はパソコンで検索します... 自然系の図書・雑誌はほとんどCD-ROM... 自然系の図書・雑誌はほとんどCD-ROM...

清水 本来、「白書」に出すために早... 清水 本来、「白書」に出すために早... 清水 本来、「白書」に出すために早...

自己点検・評価の中で一番問題に... 自己点検・評価の中で一番問題に... 自己点検・評価の中で一番問題に...

図書館の自己点検・自己評価報告書をめぐって

司会 コンセンサスを得るには、やは... 司会 コンセンサスを得るには、やは... 司会 コンセンサスを得るには、やは...

西川 恭治（にしかわ きょうじ）... 西川 恭治（にしかわ きょうじ）... 西川 恭治（にしかわ きょうじ）...



西川 恭治（にしかわ きょうじ）  
【専門】プラズマ物理学  
【現職】理学部長

最終的には私は総合情報処理セン... 最終的には私は総合情報処理セン... 最終的には私は総合情報処理セン...

司会 真の一元化にはもつと抜本的な... 司会 真の一元化にはもつと抜本的な... 司会 真の一元化にはもつと抜本的な...

藤本 自己点検・評価委員会でかなり... 藤本 自己点検・評価委員会でかなり... 藤本 自己点検・評価委員会でかなり...

例えば、広大の雑誌・図書の受け入... 例えば、広大の雑誌・図書の受け入... 例えば、広大の雑誌・図書の受け入...

ことです。湯浅 逆を言えば、一元化とい... ことです。湯浅 逆を言えば、一元化とい... ことです。湯浅 逆を言えば、一元化とい...



湯浅 健之（ゆあさ のぶゆき）  
【専門】十六世紀・十七世紀の詩と劇  
【現職】文学部長

ユーザーから見た一元化の必要性

司会 では今度は、「一元化」の必要性... 司会 では今度は、「一元化」の必要性... 司会 では今度は、「一元化」の必要性...

「広大白書1」でも既に出ているの... 「広大白書1」でも既に出ているの... 「広大白書1」でも既に出ているの...

西川 私も何人かに聞いてみました... 西川 私も何人かに聞いてみました... 西川 私も何人かに聞いてみました...

一 番極端な意見をいえば、図書館の集... 一 番極端な意見をいえば、図書館の集... 一 番極端な意見をいえば、図書館の集...

ものは自分の研究室に置いてく代わり、自分の研究費で負担する。いわゆる、中央経費、これは図書館のものから：という意識。現実決して個人のものではないんだけど、予算の一元化という自分の手から離れる気がするんです。

藤本 図書館の利用頻度が少ないということ：本当に恥ずかしいと思ってるわけですが、図書資料が各研究室に分散配置されていて、なかなかそこへたどり着けないため、ILLサービスが行われても、資料が分散配置されておらずと、探索に労力、時間がかかるということもあります。ですから、そういう意味では、新図書館へは、利用頻度の高い資料を置くことによって、多少その辺は改善されるんじゃないかと思えます。

特に文献複写については、旧帝大系の資料を見ましても、外からの依頼の方が、外への依頼よりもずっと高いわけですね。広大はそうではない。というのは、図書館に資料が充実してないので他からの依頼も少ないのです。

小嶋 例えば、同じ文献が九大と広大にあったとすると、医学関係でしたら、九大では三十分ぐらいで機械的に処理するんですが、広大では一週間以上かかりますね。それだけ集中してないし、ファックスシステムがないと郵送でしよ。全然時間が違います。

それから、医学分館は利用率がいいように思われていますが、国家試験の前に、自分たちの持ち込んだ問題集を勉強しているわけで、決して図書を

小嶋 亨（こじま とむね）  
【専門】薬毒物スクリーニング、賠償の医学的適性化  
【現職】附属図書館医学分館長



利用しているわけじゃあない。図書は、十年前、二十年前の教科書があります。歴史を勉強するのはいい（笑い）んですが、今の新しい医療を勉強するには役に立たない。だから、図書・雑誌の見直しが必要なんです。古い歴史を引きずっているから、これがなかなかできない。

雑誌でも集中率を高めるために見直すといいますが、一分館長にできることじゃあなくて、震にある五部局全部に話を通さないとできないんです。

例えば、図書館の閉館時間は八時です。それで診療が終わった時には図書館がしまっている。いざ、本当に論文書くときに不便なので、使うものは手元に置く人が多いんです。

利用頻度の高い雑誌も、重複購入していることになる。一番ひどいのは震地区だけで八冊もあります。だけど手元にないとい勝負が悪いんです。

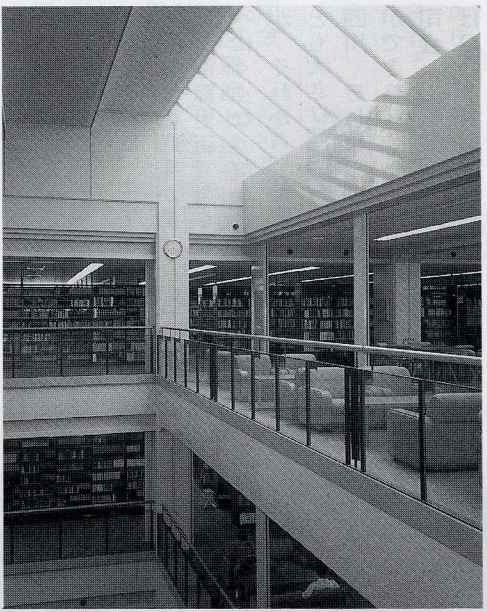
### 図書館のサービス機能の改善をめくって

まず、私はあまり変わらないような気がするんです。東図書館も学習図書館にという話もあるでしょう。前から時々いつているのは、東図書館は図書を全部出して情報センターに全部作りかえるというのが、この時代には一番いいのではないかとも思います。こじんまりとした建物ですしね。

司会 それでは、サービスの改革構想の話に移りたいと思います。

まず、開館時間ですね。二十四時間開館は無理でも、少なくとももう少し夜遅くまで、また、日曜、祭日に開けられないか、ということですか。この点は、いかがでしょうか。

藤本 理想としては望ましいと思うんですが、図書館員の勤務時間・人件費の問題は大きいですね。現状では、日常的業務にプラスして移転のための図



天窓のついた中央図書館の開架コーナー

湯浅 学生アルバイトを使うのは難しいんですか？  
清水 それは喜んでするでしょう。西条ではバイトがないから、制限しなければならぬほど集まりますよ。  
小嶋 医学分館では、実現するかどうかかわかりませんが、カード利用で夜間でも入れるようにする案がありま

辻 研究者の利用率が低いことはよくわかるんですね。抱え込んでいるから。学生も他大学の学生と比べて低いんですかね？

清水 学生も、学習の参考にする図書がほとんどないために、利用率が低いわけですね。一元化でまずできることは、学生用図書の充実です。またこれは、全学的予算という意識がないとできないことです。そのうえ、それだけの予算しかないわけですから。

辻 そういうことを明確にしていたければ、非常に賛成しやすいですね。学生が図書館に行けば基本的なものは全部あるというところまでやっていくには賛成です。

### 機能別分担 学生用と研究用

湯浅 それでも、やっぱり大学としてはリサーチ・ライブラリーが必要でしょう。だから、中央図書館まで含めて学生図書館だと言ってしまうのは、抵抗がありますね。

清水 リサーチの面では、理科系の方がいわれるように、情報提供に徹すればよい。そういう点でのサービスは、学生用図書の充実とは次元の異なる問題です。

湯浅 だけど、西図書館と中央図書館の区別が、やっぱり西図書館が学生用で、中央図書館はリサーチライブラリーを目指すべきでしょう。

辻 確かに、機能分担の問題はありますが、今は学生用図書の充実なんです

す。誰もいなくてサービスもないが、各自が責任を持って図書館を使うというわけです。勿論、事故とかいろいろ危険性があるんですけどもね。

清水 中央館の場合、一部開館できない設計になっているのもよくないですね。

司会 地域に開く意味でも日曜・祝日の開館は必要でしょう。夜間については、国内でも私立大学ですと無人開館のところもありますね。いつでもカードで入れるけど、持ち出しは自動的にチェックされるから出来ない。でも、コピーはできるというシステムです。

やる気さえあれば機械はほとんどん発達しているわけですから、検討してほしいですね。

### OPAC検索システムの改革

小嶋 夜の開館なら、ただ文献の有無を調べたいという方もおられると思うんですね。ところが、現状の文献検索は全学の図書がどこにどのようにあるか一目瞭然じゃないですね。特に遡及入力の問題ですね。現状で、どこまで入力されていて、将来どうするのか、その経費はどれくらいでしょうか？

藤本 洋書は八二年十月、和書は八三年五月、これ以前の受け入れ図書については入力されていません。図書館の計画委員会の試算では、全てを遡及入力すれば三億円かかると言われています。それをどこから出すかが問題ですが、イメージ・スキナーの精度が上がればもっと安い値段で出来るという期待もあります。また、遡及入力が全て

うね。湯浅 図書館ができれば利用率はあがるにしても、学部学生は書庫には入れないでしょ。その辺をもっと整理しないと。例えば、学生は西図書館でどこでも自由に入って手に取って見られるけど、中央館はリサーチだからそれはやらない、とかね。

藤本 西図書館は全館フリーアクセスにする計画だったんですが、一階は結局閉架になってしまいました。自由に検索できますが、教官・院生は別にして、学生の入室はチェックするわけです。それは、一つは、ディテクション・システムに反応するタトルテープを、

今年予算不足で、全部の図書に付けられなかったことが原因なんです。将来はタトルテープも全て貼って、少なくとも利用頻度の高い学生用図書には自由にアクセスできるようにしたいと思えます。

司会 今のお話ですと、だいたい西図書館を学生用図書館として学生にフリーアクセスをさせて、中央図書館は研究図書館に徹底する、という方向になるのでしょうか？

清水 確かに、西図書館を学習図書館と位置づけるのですが、それは一、二年生を対象とするわけで、専門の学生には物足りないでしょう。

西川 当面はそれでいいんですが、教養的教育の在り方が検討されていますから、その方針が出てくると、また位置づけが変わってくるんじゃないでしょうか。

清水 広大の場合は総合科学部があり

の本について必要かが問題です。  
西川 入力はやはり一応全部やった方がいいでしょう。少数のユーザーを切り捨てるといのは問題だし。どれを先にするかは別にしてもね。  
湯浅 現状では年次計画も何もないわけですよ。それが問題ですね。やっぱり少しずつでもやらなければ。  
藤本 年月を少しずつ過去に遡って、利用頻度がある程度調べて、やがては全て入力するにしても、段階的に遡及入力を始めていくのは必要でしょう。それまではカード検索をやっていただけということ、計画を進めていくことだと思います。  
清水 これは、大学自身の姿勢と意志の問題でしょうね。まず大学全体でそれをやるよ、ということになればできるはずですよ。まあ賛成が得られるとは思いますが（笑い）。  
司会 三億円というのは、全部入力する発想ですかね。重複度の計算がされればもっと安いと思いますよ。  
湯浅 アルバイトを雇って、イメージ・スキナーでやることですね。  
西川 でしょうね。一気になくて、年次計画でやるべきでしょう。  
辻 ただ、今の検索方法については、使い勝手が悪いという意見もありますね。例えば「中東」について調べたい時に、「ローマ字でいれると、「中等」教育関係の本が大量に出てきて適当なりストップアップができないというわけですよ。それもなんとかならないでしょうか。漢字で打ち込めるとかになれば、利用ものびるんですけどね。

司会 OPA Cの利用件数が統計では年々減っているんですね。これはそういう理由からなんですか？

藤本 それは、各学部で総合情報処理センターの端末があったのですが、それが電算更新で無くなったために、調べにくくなったからではないでしょうか。それから、検索が有料になったことも大きな理由です。

西川 それなら、これは、H I N E Tができれば、よくなるんですね。

司会 文献検索に関しては、医学分館はCD-ROMの利用が最近非常に増えていると聞いています。もう、キーボードが垢まみれになっている状況でした。MEDLINEでしたかね？

小嶋 そうです。入れたばかりで、やっとならぬ始めたんですが、非常に利用度が高いようです。現在、震には、分館と基礎系と内科に三台あります。

司会 検索は、そこから自分のフロッピーに落として持って帰ってするわけですか？



辻 秀典(つじ ひでのり) 【専門】アメリカ労働法の研究 【現職】法学部長

館の整備が非常に真剣に考えられているんです。

大学に重複する図書資料の中で精選して、いらぬものは廃棄し、いるものは残していく。これは我々の理想論であると同時に、広大附属図書館も、それを心がけておく必要があるわけです。すでに始まっているマイクロー化やCD-ROM化はそこへの一歩だと思えますね。

湯浅 文学部の貴重図書との関係では、貴重図書は非常にすばらしいものできて、感謝しているのですが、あのまま中央にまかすと、いろんな人が見て早く劣化してしまう恐れもあります。ですから、早くマイクロー化して、用途に応じて、原本を見たい人と、マイクローを見たい人に分けてもらうとかしてほしいですね。

西川 貴重書保存の問題になると、広大だけの問題じゃないですね。CD-ROMがらみで、学術情報センターあたりで考えるべきじゃないですか。それとあとは、情報検索ですね。

図書館の未来

司会 この辺から、西川先生がいわれた図書館と総合情報処理センターのドッキングの可能性も浮上してくると思うので、その辺を中心に将来の話にしたいと思えます。総合情報処理と図書館をコンバインした将来の図書館構想というふうな話ですね。

小嶋 それが一般ですが、利用料・電料を個人負担してパソコン通信でやっている方もおられますね。

保存システムの改革

辻 本をほんとは出してしまったときにですね、研究者の方は非常に困るだろうと思うんです。特に、貸出規則がいま一ヶ月十冊ですか、それじゃあやっていけないということ、これを抜本的に見直してほしい、という要望が強いんですね。そうでないと、なかなか本当にいい本、必要な本を出していくということにならないと思うんですね。清水 何十冊、何か月という貸出をするくらいなら、何のための中央化かということになります。

司会 そういってしまえば、結局、自分のとこに持つとくのがいいということになってしまいますよ。(笑)

湯浅 もっと心配なのは、研究者が専門の図書を私費で買って、図書館に入らずに退官してしまうことです。自分の本という意識では、そういう傾向がずっと続くと思います。ですから、図書購入は個人の判断ではいけないんで、やはり、どこかできちんと購入のシステムを作らなければいけません。それがなかなか大変なんです。

辻 蔵書扱いしなくていいものまで蔵書扱いしていないかも問われますね。ここ数年は、ある種の本は消耗品扱いで入るようになりましたね。ただ、あの基準が随分あやしいと思うんです。例えば、ペーパーバックや、法律の解

清水 情報処理センターの方に図書館機能を切り離す希望があると聞きました。

西川 それは、現在のセンターの予算と人員の枠内では全てはできないから、ある程度限定していかうという議論だと思いますので、附属図書館と一緒にやって、大きな組織になったらまた変わるんじゃないでしょうか。

将来構想と現状は違いますからね。将来構想は、一つのビジョンを持って立てるべきで、その方向に向かってステップ・バイ・ステップでやってゆくわけですね。現状では、センターとして、予算と人員の枠内で何をやるかという議論になりますから。特に大型汎用機の場合、電気代も随分かかりますし、ユーザーはどんどん減っているんです。ほとんど計算サーバの方に



アメリカ国立医学図書館のデータベース(MEDLINE)の検索端末

説みたいなやつですと、みんな消耗品扱いになったりするんですが、特殊な法律ですと、政府が出した解説だけが、それについての貴重な論文・本だということになるんです。

何が消耗品扱いになり、何が蔵書になるかがはっきりしないで、蔵書扱いしないという点ばかり強調されると困ります。その辺を見極めるプロを養成する意味でも、職員質の向上、研修の奨励というのが必要でしょう。

湯浅 雑誌の場合は、全部集めて、一セットだけ完全な形で残して、他は廃棄ということになるんですね。それはいいと思いますが、ものによつたら、一セットでは困る場合があるでしょう。その辺もうちょっと細かく検討してもいいですね。

藤本 必ずしも重複購入を一切認めない趣旨ではなく、委員会で見直しを始めたばかりで、各館を超えて全体としての予算執行を考えています。雑誌についても、重複分はやめてもいいかを問い合わせます。利用頻度の高いものは当然残し、どうしても研究室に置く必要がある場合も考えながら、共同利用できるものや、高価なものは一本化するという作業をやるわけですね。

湯浅 その辺の方針を早く知らせてもらいたいですね。例えば、来年うちが移転するんですが、うちのPMLAをどうするかという問題があるわけですね。それを図書館に供出したら、既に一セットあるからいらぬといつて全部捨てちゃう(笑) 恐れもあるんで、それならうちへ保存して継続しようか

ちやつてるんですよ。やっぱり、ネットワーク化が進んでいますから。

藤本 大型汎用機は利用者にして稼働にお金がかかるので、例えば、土曜日は今後運用しないとか、来年度には夜七時以後の運用はとりやめるといようなことでしょうか。これは、図書館としても非常に同情すべき点がありよく理解できます。しかし、図書館の方は、これでOK! 止めてよろしいとはなかなか言えない。というのは、利用者サービス、OPACを動かしているからです。将来ワーク・ステーションへ移行するという案もありますが、いつかはまだわかりません。

ある国立大学は図書館の新築を計画していて、情報処理センターと一緒に建物の建築計画だと聞いています。それが、ニュー・メディア時代をにらんだ新しい図書館構想であることは私にも分かります。そんな流れもあるもので、先日も中四国の学術情報専門委員会で、情報処理関係の先生方との合同委員会で意見をたかかわせて、いろいろ教えていただきました。我々も、例えば、中四国のネット・ワークをどうするか、という将来に向けての勉強を始めていくわけです。

司会 これまでの図書館は、紙の図書と雑誌を利用して情報を得る形だったと思いますが、ここ二十年ぐらいの間に、情報は次の媒体に移行しつつあると思います。電子機器を中心とした、コンピュータを利用した新しい形の情

とか考えるわけですよ。

清水 図書館へ本を集めることばかり考えるのが、どうもおかしいんです。つまらぬ、いらなくなったようなものでもいいから冊数をそろえて七〇%集中というシステムは、もう面積を取るだけで意味がありません。

藤本 職員は運営委員会の方針にあわせて努力しているわけで、七〇%は努力目標に過ぎません。

清水 いやいや、そうとは言い切れないでしょう。調査でも、蔵書数がいくらというように、すぐ数字を見ますからね。質の評価を自己点検評価の中でも是非にとつたんですが、実際問題としてできませんでした。なにも数だけを誇る必要はさらさらないと思いますし、だめなものを集めるようなことはもうやめるべきですね。

司会 やつぱりそれには、一番保存状態のいいものだけを残して、他はもう廃棄するというようなドラスティックなことが必要でしょう。

湯浅 本によっては、どうしてもダメになるのがありますから、やつぱりフロッピーにのりつけをしない。これは国レベルの話だけど、広大でもそういう対策を考えていくべきでしょう。

藤本 国立大学の図書館協議会では、保存図書館に関する調査・研究の中間報告を出しています。また、資料保存に関する中間報告書も出しました。酸性紙、劣化の問題が起きて、今のまま放っておくと二十世紀に出版された本から、図書館の中で全くブランクの時代がでてくるだろうと恐れられて、保存図書

報です。これからは、こつちの方が主力になって行くと思います。

そうなることや、今まで別個と考えられていた情報処理の問題と、図書館機能とを総合的に考えなくてはならないと思いますね。

今年度の図書選定

司会 もっと近い将来のことですが、図書選定の問題はどうですか？

藤本 今年度の図書館予算は、管理運営費と図書館資料費という、二本の柱でお認めいただいたわけです。そこで図書館資料費の執行について、運営委員会が計画しているわけですね。

従来ですと、負担率に応じて学部に分けることも可能ですが、図書館毎に区分することもあり得るのですが、自己点検評価委員会の主旨にそって、平成七年まで暫定的ではあります。できるだけその精神を活かす形で、主として、学生用の基本図書を選定することが計画されました。選書のグループを分野で分けたのはそのためです。

人文社会科学系、教育科学系、自然科学系、医学系の図書資料選定小委員会、それから学習用図書資料の選定小委員会がそれぞれです。それぞれには、各々の分野に明るい運営委員に加えて、各学部にお願いで、他の方にも加わっていただきました。この委員会が九月から選定作業に入ります。雑誌については、既に予算執行段階



10月18日オープン予定の西図書館の学習コーナー

にありますので、来年度の契約を念頭に九月末までに見直しします。重複雑誌を、重複購入が必要なものとそうでないものに分け、いままで割愛した雑誌に復活すべきものがあれば復活させるという作業をするわけです。

その上で、それをどこに置くかが問題になります。図書の購入は十二月末頃まで可能ですが、配架の決定がその後にくるわけです。

清水 問題は、図書予算の各学部からの控除が積算校費に基づいているので、人文社会系といながら、文・法・経のグループというような、学部単位にならざるを得なかった点にあります。そこには、これだけ出したからそれに見合うものという極めて低俗な思想が出てくるんですね。これでは、せっかく予算一本化しながら、仏作って魂入れずみたいなことになります。各分野の基礎になる図書の重要度と、部局予算規模が全学中で占める割合とは全く関係ないと思います。そんなばかことを考えたくなる算定の基礎を作ったことが、今年度の大きな誤りです。

司会 学部負担率に応じた購入予算配分だというわけですね。どんな代案がありますか？

清水 徐々に改革するしかないと思いますが、予算を出した背景を考えなくて必要な雑誌と図書の兼ね合いも違うし、例えば、教育系図書と医学系図書なんかでは、一冊の単価がものすごく違ってきます。その辺を考慮して、対応できることが重要ですね。

司会 今のところは、教官側が一方的に図書を選定するというお話しだと思わんですが、学生側の要望はどれくらい反映されるんでしょうかね？

藤本 現在でも、学生、教官を含めて購入希望図書を出す制度があります。それに応じて、事務の収書委員会が検討して、その意見が図書館運営委員会で活かされるのです。

清水 ほとんどの要望には応じているようです。ただ、個人的な趣味とかを除いてね。購入希望の用紙はデスクのところにちゃんとあるようですよ。

辻 今回の共通費で買う本の性格ですね。一番最初にお聞きしたんですが、本の集中管理の一元化の目的にそって、学生の基本図書というふうに限られているんですか？

清水 それの基本ですが、全学の教官に共通のもの、例えば、医学系のもので、他学部に必要なものも当然あるわけですから、それも含まれます。従って、共通用図書と学生用図書になりますが、まずは学生用を充実しなければならぬ時期だと思えます。

従来図書館で購入していたのは、もっと少なかったはずですよ。

清水 中央館だけで見ればそうですが、そこが一番問題だったのです。教育学部に分室がありました時は、その分室を維持するのに、かなりの費用を、図書購入費以外に出していたはずですよ。それは無駄な出費の部分が大きかったわけで、なくなった方がずっといいでしょう。予算的には、湯浅 いや、いままでの方がよかったですよ。その出費は自分に返って来るんですから。今度出した分は、他の目的に使われることになりまして、分館がいままで自前でやっていたところを、全体予算でやるわけだから。

西川 例えば、東図書館の購入図書に相当する分は、中央図書館を利用する部局はそれぞれの費用で買ってたわけですよ。中央図書館で購入していたのは、厳選されたごく一部でした。ところが、東図書館では、自分の研究室に置いてくようなものまで、図書館で購入していたわけで、それを、図書館の費用で負担すべきだといわれても、納得できません。

清水 ですから、共通化の絶対条件は、それを見直して、学生用図書及び共通図書を買うことが必要です。例えば、医学分館も、あれだけの予算を使いなから、学生の学習用図書がない。それは、いままでも全学的立場から学生用図書の購入がなされていなかったからですよ。湯浅 見直しをするというところが、我々にはつきりと伝わってこないわけですよ。だから、持ち出しになると

西川 共通図書というのは難しいです。複数の学部にもたがっていても、分野が違うと評価も違うしね。それに、今回、図書費と運営費を分けて予算化したのは、運営費の方は常に必要だが、図書費は今年度限りという意味で、つまり、西図書館の立ち上がりに必要な分としてつけたんだらうと、私は了解しているんですけどね。そうじゃないんですか？

毎年この図書費がかかるというんなら、もう図書じゃなく、情報検索の時代なのに、問題じゃないですか？

清水 いまの予算で増えて困るというほどの本は買えませんよ。

湯浅 予算はそんなに増えてないから、学生向きの本を共通図書みたいに考えて買う方針なんですよ。そうであれば、研究用図書は、従来どおりという前提なの？ なぜ最初に七〇％供出になるんですか？ その辺が矛盾するんじゃないの？

清水 当面の購入はそれが急務で、予算は増えてないから、それしか出来ないうわけです。

辻 いずれにせよ、部局負担率に応じた配分を出した分だけ持って帰るなら、出す必要ないじゃないかということになりますよ。

清水 それでも、それは、研究用図書とは違うんですよ。いままでの、部局負担の時代には、学生用図書が非常に冷遇されて、研究用のものが中心だったんです。学生用図書を中心に購入できる仕組みとして、一元化の要求があったわけですよ。

この説明しきれないこととなります。どなたに聞いても。

西川 だから、持ち出した分に相当する割合で、自然系、人文社会系、医学系に配分したというのは、一つの見識だと思えますけど……。

清水 いや、全学的な見地から図書選定をしようということであれば、各分野の予算規模の割合で図書選定することは、極めて不見識だと思います。

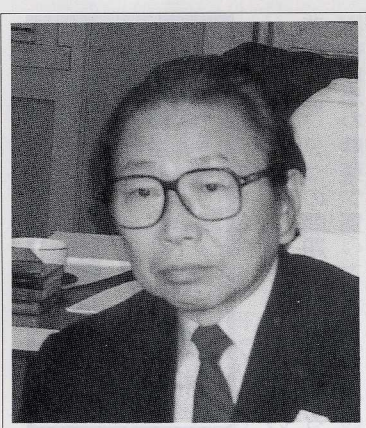
西川 でも先生、全学的見地ってどうやって作りますか？ 辞書類ならわかりますけど。

清水 定義付けは困難ですが、個々の図書・雑誌について、そのような見地から検討すれば、広い分野で利用されるものか、狭い専門的分野のものか、かは判断できると思います。また、各分野の持ち出し分で購入し得る図書数が、全学的にみて必要な分野別図書数を反映しているとはいえません。

清水 凡生(しんず) ほんみ

【専門】 幼児の言語獲得・技巧性の発達、小児腎疾患の臨床

【現職】 教育学部附属幼年教育研究施設長



辻 図書とか一部雑誌については、学生用ということで、主旨が徹底し得ると思うんですが、雑誌の一部では、おおよそ学生には縁がないようなものが入りそうなんですね。だから、それはもう削って、従来どおり各学部で買えばいいんじゃないでしょうか？

西川 学生というのは、どんなレベルの学生でしょうか？ 大学院まで行ったら、そりゃあ、研究用図書と区別がつかんでしょう。

清水 大学院学生は研究室に関わりが深くて、それでカバーできると思いますが、一、二年生用の学習用図書と、三、四年生用の専門課程に係わる専門図書が揃えられるべきでしょう。

司会 そうすると、大綱化で旧一般教育がもう学部の独自性に任ざされてきたら、そんなもんはいらんという議論になってきますよ。学生用といっても、学部ごとに考えるのがみな違うんですよ。

清水 だから、いくつかの学部から選出された選定委員で選定いただくことにしたわけですよ。

西川 だけど、またそれは、人文社会系と自然系で考えが違うでしょう。その調整はどうするんですか？

清水 それぞれの領域で選定される訳ですから、それはそれでいいでしょう。調整の必要はありません。

藤本 新しい図書館には学生用の基本図書が欠けているという点では意見が一致しているわけで、だから取り合えず今年度は学習用図書の整備に使うわけですよ。将来の図書館づくりでは、研

西川 それはわかりませんが、他

清水 いろんな領域の者が集まっている運営委員会ですから、やはり運営委員会にそれだけの権限とそれだけの責任も持たせるべきだと思うんですよ。

湯浅 僕がいったのは、運営委員会ではそれは無理なことですよ。どんな委員会を作っても無理でしょう。それはもう、多くの人の意見を聞いた上で、委員会が整理するだけのもの、で、委員会独自には出来ないだろうと、思うんですよ。学生用図書というけれども、何が学生用かは非常に難しいと思えます。例えば、「日本人とアメリカ人」なんていう一般教養みたいなものをいうのか、それとも授業に使うものをいうのか、とかね。

清水 できないからしないというのは何の進歩もありません。そのために選定小委員会が作られているわけですから、そこで最大の努力をすべきでしょう。学生用図書は、授業に関する学習の参考になる図書という意味でしょう。

湯浅 そうであれば、授業担当の先生から、こういうものというものが要りますよ、ということを委員会にだして、委員会がそれをまとめて、選定すればいいわけです。

清水 それは、各分野の選定委員会にお任せしていいから。

司会 もう、予定時間をかなりオーバーしてしまいました。だいたい、今日分かったことは、やはり、一元化問題に

関しては、非常にまだ不信任感があって、誤解もあるかもしれませんが、とうて

「一元化」論争の根元

西川 従来の分館購入図書は、受益者負担でやっていたと思うんですね。それを図書館費用だと考えれば、確かに今年度は増えてないでしょう。だけど、